1　はじめに

（1）聖天山周辺地区の姿

聖天山周辺地区は、古くから聖天様とともに歴史を歩んできた門前町です。水辺に囲まれた特徴的な地形、奥深い歴史文化に由来する社寺や道筋は、当地区の大きな骨格を形成しています。

また、地区内には生活の中で育まれてきた庭先・店先の緑、小さなお社や祠や碑、手づくりのものが随所で見られ、親しみや穏やかさをまち並みに与えています。さらに四季の緑の表情の変化や季節ごとに行われる祭事やイベントはまちに活気をもたらし、住む人や訪れる人にとって大きな魅力のひとつとなっています。

水に囲まれた、緑豊かなまち

当地区の北には、近世には水運で栄えた利根川が流れ、芝川という水路がまわりを巡っています。

利根川の土手から当地区を眺めると、こんもりとした森として見えてくるのは、聖天山と大我井神社の緑です。こうしたまとまった緑、森の存在は地区の環境にとって大変大きなもので、夏の強い陽射しや、山・川からの強い風からまちを守るものでもあります。

まちなかを歩くと、庭木や草花を愛する人がとても多いまちだと気づかされます。大小様々に施された庭先・店先の緑の、楽しく愛らしい様子が地区に穏やかさと大きな魅力を与えています。

また、社寺や個人宅の大きな樹木、芝川沿いの桜並木は地区の緑のシンボルともなっています。

こうした豊かな緑は季節ごとに姿を変え、暮らす人や訪れる人を楽しませてくれます。















聖天様や大我井神社、小さな神仏を大切にしてきた歴史あるまち















古くは鎌倉時代より聖天山の門前町として形成され、聖天様とともに歴史を歩んできました。

中山道と上州南部を結ぶ脇往還の宿場町、利根川舟運の渡し場や河岸直近の町として、奥深い歴史的背景を持ち、そのシンボルとして聖天様があります。参道で結ばれている歓喜院本坊や大我井神社とともに、一帯が歴史的な核となってこのまちに繁栄をもたらしてきました。

また、井田記念館や坂田医院旧診療所などは優れた建築意匠を持ち、近代以降の産業や文化の薫りを伝えています。

さらに、一本路地に入ると、お家の敷地の隅、まちかどなどで小さな小さなお社や祠、塚、碑などがとても多く見かけられます。花が添えられていたり、掃除の行き届いた様子から、日頃からの素朴な信仰心とともに大切にされていることがわかります。

昔ながらの道すじ

　このまちは、門前町として形成された頃からの旧い道筋が骨格となっています。
　時代を経て付け替え、拡幅などなされたところもありますが、表通り、裏通り、参道などの大きな構成は当時に由来する昔ながらのものであり、それぞれ沿道の建物の様子などから、初めて訪れた人にもそれとわかるメリハリのある空間となっています。






手づくり・アートを愛する気風









　地区内では、アート、あるいはハンドクラフト、手づくり感といった言葉が似合うような、様々なオブジェや手づくりのものを見ることができます。
　商店の庭先に置かれた手づくり看板やまちなかギャラリー、当地区の様々な所に設置された絵看板、ベンチやお休み処など、愛らしく、作り手の人たちの気持ちが伝わってくるようです。
　美しい彫刻をはじめとした聖天山の造作や、それを支えた地元の気風が、こうしたものづくりの精神を培ってきたのかもしれません。

まちを彩る季節のイベント

　高く燃え上がる炎が幻想的な大我井神社の火祭りなどの祭事は古くから脈々と受け継がれてきました。
　また、非常に華やかで夜までにぎわいを見せるめぬま祭りや毎年２回開催され多くの作り手や来訪者で賑わう手づくり市をはじめとして、まち歩きや今後開催予定のチャレンジショップなどの新しい魅力はまちに活気をもたらし、普段とは違う道やまちの様子がみられるなど、このまちの魅力の一つとなっています。






（2）めぬま今昔ものがたり

熊谷市妻沼地域は、利根川に沿う肥沃な平坦地で古くから農業が開け、近世以降は脇往還の宿場町、聖天山の門前町として繁栄し、近世には利根水運の河岸として栄えてきました。

当地区にもその豊かな歴史と文化風土を裏付けるかのように、古社、名刹が多く存在しています。なかでも、日本三大聖天の一つに数えられる「妻沼聖天山」は、日光東照宮を彷彿とさせることから「埼玉日光」ともいわれ、その歴史は当地区の歴史に連なる、といっても過言ではありません。

創建は治承 3 年（1179）とされ、火事などの被害で何度か再建され、現在の建物は、宝暦 10 年（1760）に完成しました。この時の工事の費用を負担したのは、幕府や大名、豪商などの権力者ではなく、妻沼を中心とした庶民たちでした。人々は親しみを込めて「聖天様」と呼び、その素朴な信仰心は脈々と妻沼の地に受け継がれており、本殿の歓喜院聖天堂の「平成の大修復」の際には再び多くの人々から浄財が寄せられました。国・県・市からの補助もあり、念願の修理は実現、建立当時の美しい姿を蘇らせました。

【略年表】

1179 年	妻沼聖天山創建
1760 年	現在の妻沼聖天山の建物が民衆の浄財により完成
1868 年	大我井神社と聖天宮の分離
1943 年	東武熊谷線が開通し、妻沼駅が開設される。
1983 年	東武熊谷線が廃線となる
1957 年	井田友平居宅を妻沼町に寄贈、現在地に井田記念館として移築
2003 年 - 2010 年	歓喜院聖天堂の平成の大修復が行われる
2004 年	坂田医院旧診療所が登録有形文化財となる
2012 年	歓喜院聖天堂が国宝に指定







妻沼村絵図
（江戸時代末期.新井家文書）
この頃には、地区北側の水路、現在の主要な路線である羽生妻沼線、太田熊谷線、歓喜院本坊から聖天宮への参道、路地など、現在のまちの骨格が当時からのものであることがうかがえます。



（左）仲町通りのまち並み
洋品ハ三木屋という街路灯の左に鉄骨の火の見櫓がみえます。
（昭和 30 年 . 内野清氏撮影）



（右）上町～本町の瓦葺きのまち並み。埼玉銀行の洋風建築もみられ、奥に大我井神社の杜。（昭和 30 年頃，林写真館寄贈）



平和の塔落成祝いのお練り
歓喜院本坊から聖天堂に至る参道には桜が植えられていた様子が伺えます。（昭和 37 年，内野清氏撮影）

聖天山周辺地区における様々な取組み

当地区では、聖天山周辺の清掃活動をはじめ、「めぬま観光ガイドボランティア　阿うんの会」、若手商人を中心に結成された「めぬま商人（あきんど）会」、まちづくりプロジェクト「めぬまチャンネル」など、地域の方々による様々な取組みが進められ、商工会によるイベントやガイドブック「めぬま縦横無尽」の発行など、聖天様をこころの拠りどころとしながら、妻沼を訪れた方をもてなし、楽しい時間を過ごしていただけるよう、様々なまちづくりの取組みが行われています。



阿うんの会によるボランティアガイド
メンバーの個性が光るガイドが来訪者を楽しませている



聖天山の清掃
住民主体で行ってきた聖天様の清掃も、商人会とも協力した取組となっている



めぬま縦横無尽
地元の見どころ・お店を紹介するガイドブック

（３）聖天山周辺地区の景観資源（お宝）

地区の調査や、ワークショップの中で抽出された、このまちの景観資源をマップにしました。

ワークショップでは、大きな通りだけでなく地区内の雰囲気の良い道や、いわれのある道なども紹介され、それらをつないでいくと、地区内の様々な資源を見て歩くルートが見えてきました。

一方で様々な課題や、より良くしていくための提案もあり、それらの課題解決やより良くするための取組みを進めていくことで、歩く楽しさがさらにふくらみを増すように思われ、このまちの魅力の向上につながりそうです。

そのような取組みを進めながら、大勢の方々にこの景観資源マップをご紹介し、私たちのまちの魅力に触れていただきたいと考えています。

